

## 財務諸表に対する注記

## 1. 重要な会計方針

## (1) 有価証券の評価基準および評価方法

その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は正味財産増減額として処理）を採用している。

また会計処理は洗替処理でなく切放処理としている。

## 2. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
普通預金	43,874,550	0	0	43,874,550
投資有価証券	896,988,000	7,754,000	0	904,742,000
小 計	940,862,550	7,754,000	0	948,616,550
特定資産				
貸与貸付金	29,236,000		2,234,820	27,001,180
奨学事業積立資金	123,991,539	-	442,469	123,549,070
小 計	153,227,539	-	2,677,289	150,550,250
合 計	1,094,090,089	7,754,000	2,677,289	1,099,166,800

## 3. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味財産からの充当額)	(うち一般正味財産からの充当額)	(うち負債に対応する額)
基本財産				
普通預金	43,874,550	(43,874,550)		
投資有価証券	904,742,000	(904,742,000)		
小 計	948,616,550	(948,616,550)		
特定資産				
貸与貸付金	27,001,180	(27,001,180)		
奨学事業積立資金	123,549,070	(123,549,070)		
小 計	150,550,250	(150,550,250)		
合 計	1,099,166,800	(1,099,166,800)		

## 4. 指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳

指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳は、次のとおりである。

(単位：円)

内 容	金 額
経常収益への振替額	
使途の制約の解除による振替額	20,864,286
合 計	20,864,286

## 5. 正味財産増減計算書に計上されている受取寄付金振替額の内訳

(単位：円)

区 分	当年度	前年度
当年度受取寄付金額振替額	5,003,500	5,400,000
過年度受取寄付金額振替額(特定資産取崩額)	3,213,289	1,542,436
合 計	8,216,789	6,942,436

当年度の受取寄付金を振り替えて不足する分は、過年度に寄付金として受け取り、特定資産として運用していた一部を取崩し、財源としている。